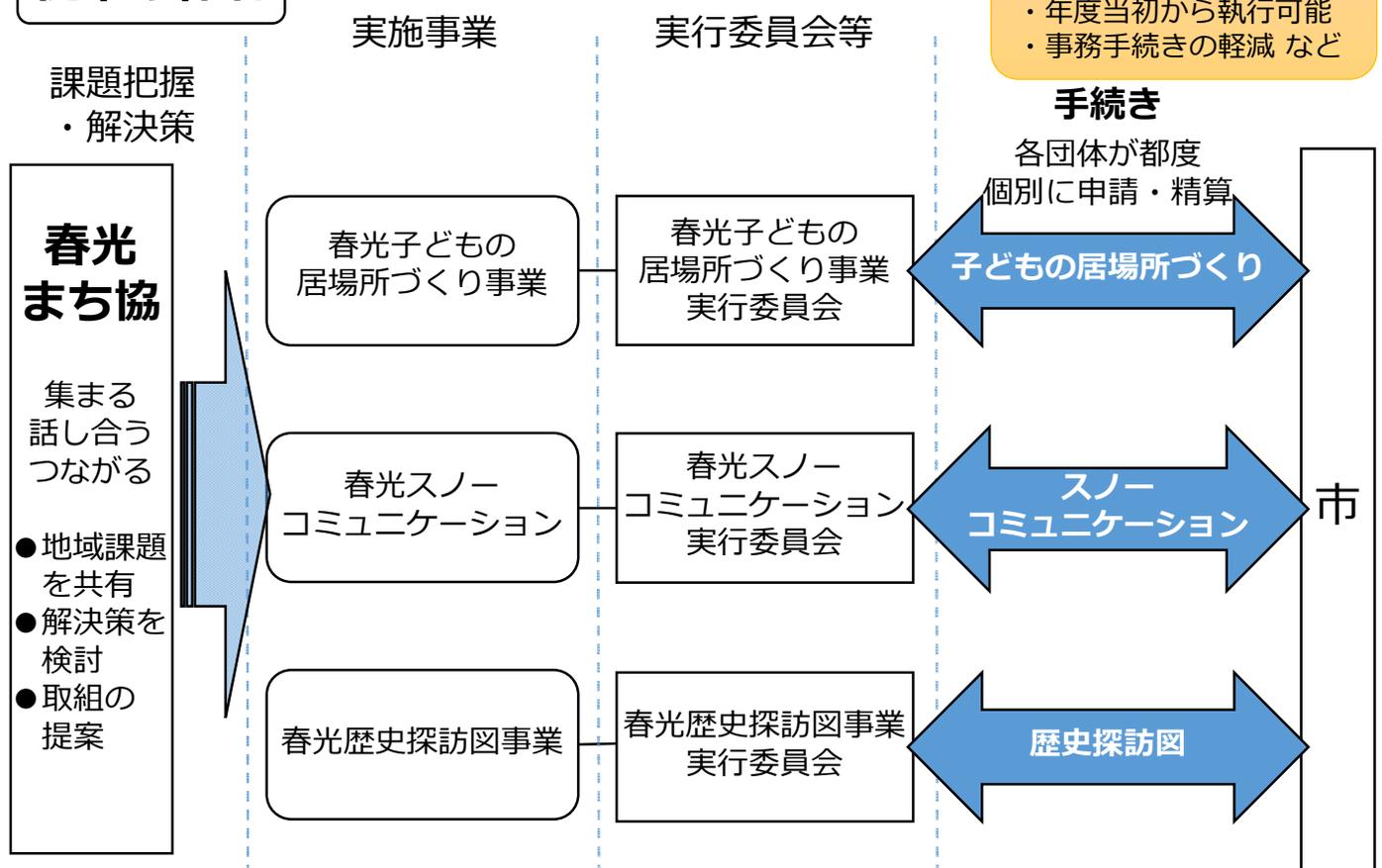


# 包括型まちづくり事業への移行イメージ（仮）

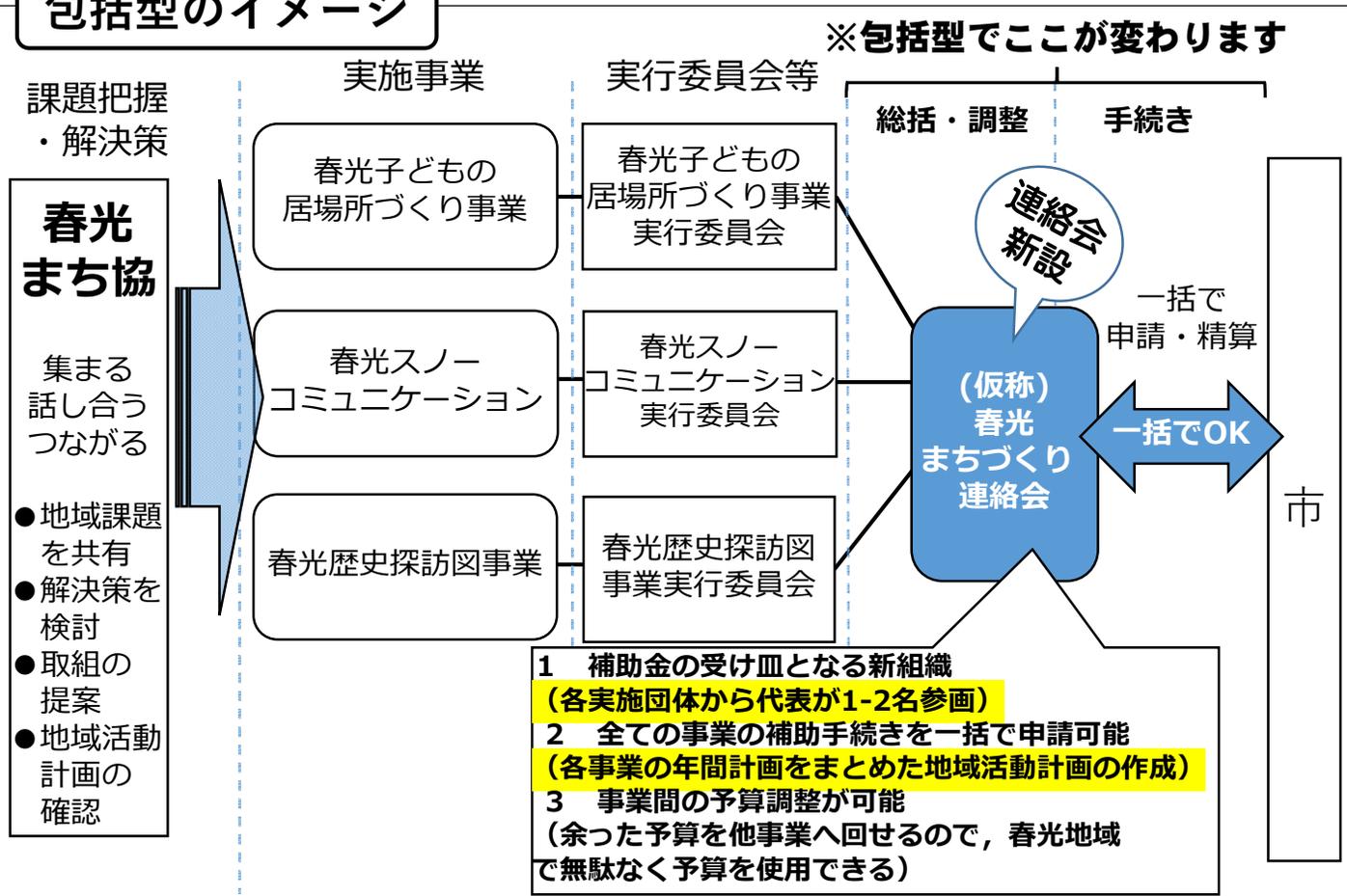
包括型のメリットは？

- ・地域予算の確保
- ・年度当初から執行可能
- ・事務手続きの軽減 など

## 従来の体制



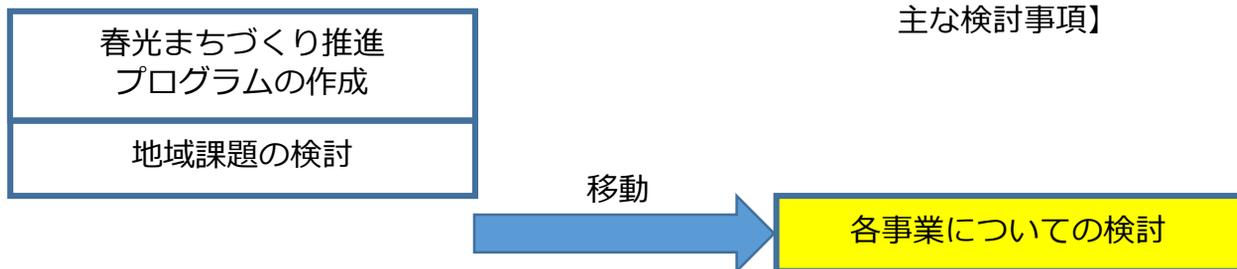
## 包括型のイメージ



# (仮) 春光まちづくり連絡会のイメージ

【春光まち協での主な検討事項】

【(仮) 春光まちづくり連絡会の  
主な検討事項】



各事業についての検討を(仮)春光まちづくり連絡会に移行することにより……

→各実行委員会で別々に検討していた内容を、連絡会で検討し、実行委員同士で協力して事業に取り組んだり、春光地域の地域課題を俯瞰した事業展開ができる

(仮)春光まちづくり連絡会は春光まちづくり推進協議会 **(検討組織)** と各実行委員会 **(実行組織)** をつなぐパイプのような役割を担う会になります。

- 1 構成員 各実行委員会から1-2名(会長・委員長でなくともよい)
- 2 会議 年間2回程度開催予定
- 3 役割 (1) 地域活動計画の作成及び春光まち協への各種報告  
(2) 地域活動計画に基づく事業や予算の調整  
(3) 補助金申請に係る事務手続き

## 包括型まちづくり事業補助金の特徴

・事業間での補助金額の調整が可能となる。

例) 当初予算60,000円を予定していたが、50,000円しか執行せず予算が余った。

→「地域活動計画」にある他の事業に10,000円を融通することができる。

・事業間で消耗品等の共有、チラシの共同作成等、経費の節約が可能となり、新たな事業への予算配分などが可能となる。

・年度末までに活動計画を作成した場合、年度当初からの事業執行が可能となる。

・実行委員会間で、事業運営のノウハウなど、情報の共有が可能となる。

